



速報新聞

キマグレ

発行所

彦根東高等学校

新聞部

彦根市金亀町4番7号

自転車 → 電車

今回は「通学方法交換」と題し、新聞部員2人がそれぞれの通学方法を体験した。このキマグレでは電車通学の部員が自転車通学を体験した様子と、自転車通学の部員が電車通学を体験した様子をそれぞれ記録した。



▲新八日市駅の駅舎は大正時代のものが現在まで使われている。

12月23日に自転車通学の部員が電車通学を体験した。今回は新八日市駅から近江鉄道万葉あかね線(八日市線)で近江八幡駅(琵琶湖線)に乗り換えて彦根駅に向かうというルートで学校に向かった。近江鉄道万葉あかね線で近江八幡駅に向かう車内は大勢の学生で賑わっていた。窓の外には太陽に照らされて青々と輝く山が見え、自転車通学の部員は見慣れない綺麗な光景に息を呑んだ。近江八幡駅で乗り換えの電車を待っていると、駅独特の喧嘩が感じられた。それは騒がしかったが、どこか落ち着く騒がしさだった。JR東海道本線で彦根駅に向かっていると、徐々に窓の外が見たことのある風景に変わっていった。その景色を眺めていると、学校が近づいてきていることが実感できた。



▲電車を待つ部員とホームに入線してくる新快速電車

彦根駅についてからは歩いて学校に向かった。その日は道に凍りかけの雪が積もっていて、何度も滑って転びかけた。特に点字ブロックの上などはとても滑りやすかったが、周りの電車通学の生徒たちはどンドン歩いていっていたので流石だと思った。学校に着くと野球部の元気な声が迎えてくれた。そのとき、慣れない電車通学をやったという達成感を感じた。



▲新八日市駅で物思いにふける。

東高生の日常 ⑨

自転車 → 電車

通学方法交換

電車通学の魅力

朝早く起きる必要があったり電車の時間に縛られやすかったりと大変な電車通学だが、利点も多い。例えば電車の時間は変わらないので、時間を管理する能力をつけることができる。乗る電車の時間から逆算して行動できるのは電車勢の特権といえる。また電車に乗っている時間で勉強ができるのも利点の一つだ。その日の授業の復習を帰りの電車の中で済ませ、家では次の日の予習をする。そして朝の電車ですりこぼしや漢字テストの勉強をするなど、工夫次第で無限大の勉強法が生まれるのだ。



▲彦根駅を発車するJR西日本225系電車

新快速

1月5日、電車通学している部員が自転車での通学を体験した。今回は松原橋交差点をスタートしたのち、金亀公園を経由して彦根城の堀のなかに入り、学校へ向かうというルートをとった。松原橋交差点をスタートして湖岸道路の側道を進むと、水辺には魚釣りを楽しむ人が大勢いた。冬の朝に時間を忘れて釣り糸を垂らし、引きを待っている人の姿を見ていると穏やかな気持ちになった。橋を渡って金亀公園に入ると、右手に彦根城の姿が見えた。普段とは違った角度から彦根城を望むと、どことなく彦根の歴史を違った角度から



▲信号待ちをする新聞部員

覗き込んだような気持ちを持たせた。かつてこの地を治めていた井伊家の人々も、この景色を見ていたのだろう。金亀公園を過ぎると学校は目前で、途中からは電車通学の生徒と同じ道を通る。駐車場付近では観光客の姿も目立つ。ガイドブックを片手に彦根城へと足を進める人々も、彦根の歴史を肌で感じているのだろうか。



▲彦根城を横目に学校へと進む。

自転車通学の魅力

自転車通学は出発時間がある程度は自由であるから、多少なら寝坊をしても何とかするし、自転車を漕いでいるうちに眠気はなくなる。また景色も電車通学に比べてゆっくりと見られるので、彦根城をじっくり見ることもできる。

互いにいつもと違う方法で登校したのは初めてであった。通学方法を交換して、普段は自転車通学をしている生徒は早朝の電車からの景色に胸を打たれ、電車通学をしている生徒は彦根城に見下ろされながら自転車で朝の風を感じた。ほかの通学方法を知ること、自分の通学方法にも大きな魅力があることに気がついた。みなさんも改めて自分の通学方法を見つめ直してみると、新たな魅力を発見して日々の通学が楽しくなるかもしれない。